



ボランティアでつながる

ユネスコ協会 ESD Passport Project

2015
12/26

ESDパスポート ボランティア体験発表会



(公社) 日本ユネスコ協会連盟(百エ協連)が日本ユネスコ国内委員会の後援を受けて、全国のユネスコスクール(ESDを実践するUNESCOの認証を受けた幼稚園・大学でESD推進の拠点校。二〇一六年二月現在九三九校ある)と連携して二〇一三年より実施している小中高生を対象としたESD実践の一環として期待しているボランティア促進事業です。現在大阪府内では十三の中高のユネスコスクールがこのプロジェクトに参加しています。ボランティア活動に参加した中高生たちは活動を日ユ協連の発行したパスポートに記録、活動が一定数になると日ユ協連に報告、日ユ協連が発行する「ボランティア活動認定証」を手にするというシステムです。ボランティアに参加した中高生は活動を通して人と人とのつながりや、人のために活動することの大切さや素晴らしさを学んでいます。このプロジェクトでは、こうした活動の成果の学び合いに活動に参加した生徒たちの相互の間だけにとどめず、広く大阪府内の生徒たちとも共有するための発表会を大切にしています。二〇一五年度は、主に関西の高校生を中心とした学習活動・研究の発表の場である「ワンワールドフェスティバルフォーユース」(大阪国際交流センター)でボランティア活動での体験の成果と学びを発表しました。

南北 코리아 と日本のともだち展 平和の心をはぐくむ絵画展



二〇一一年より始まった「南北 코리아 と日本のともだち展」は、北東アジアの四カ国(日本、大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国、中華人民共和国)の子どもたちが、同一のテーマで絵を描き、メッセージを添えて各国で「ともだち展」を開き平和について考えるという取り組みです。この活動は、直接には出会うことが難しい子どもたちが、絵とメッセージを通してお互いの文化を知ると共に、共に生きる大切さを知る機会になります。そのほかに「あべのハルカス近鉄本店」でもミニ「ともだち展」を開いて府民に北東アジア理解を呼びかけています。参加者からは、「いま世界は政治的に対立しているが子どもたちから学ぶことの多い絵画展だ」「同じテーマでも国によってまちまちだが、仲良くしようねという平和の心は共通している」などの感想が多く寄せられています。

二〇一五年度の共通の絵のテーマは「私のお気に入り」。今年も十一月十三日、十五日、大阪国際交流センターで開かれた「ともだち展」には、大阪の2つの小学校ユネスコスクールが絵画で参加、3つの中高のユネスコスクールの生徒たちがボランティア参加をしました。そのほかにも「あべのハルカス近鉄本店」でもミニ「ともだち展」を開いて府民に北東アジア理解を呼びかけています。参加者からは、「いま世界は政治的に対立しているが子どもたちから学ぶことの多い絵画展だ」「同じテーマでも国によってまちまちだが、仲良くしようねという平和の心は共通している」などの感想が多く寄せられています。



- おおさか展 11/13~15
- とよなか展 11/13~15
- 東京展 2/13~15
- ハルカス展 3/1~22

2015
7/17~21

3・11 広がる支援 がんばろう! つばさネットワーク

2015年7月17~21日に、大阪の中高生が東日本大震災の現地ボランティアに参加した。がんばろう! つばさネットワークは、大阪府下に呼び掛け、参加校、参加者とも拡大し、6回目となる今回、ユネスコスクール7校の中高校生82名を含む101名の参加となった。

東日本大震災は日本が経験する千年に一度の大災害だった。いのちと人間の営みは自然により一瞬で奪われた。その中でも復興に向けて生きる方々との出会いを通して、中高生は言う。「支援のつもりで大阪から来た、自分の方が皆さんから教えてもらった。」

何を学んだのか。饒舌に語る中高生は多くはない。しかし、被災地ででの交流は高校生にとって衝撃的な学びの瞬間だったに違いない。なぜなら、寡黙でも続けて参加する高校生が多いからである。今後、新たな参加校が増え、自らの学びを掴む中高生が増えることを期待したい。

(北摂つばさ高校 藤井伸二)

